

国道15号 北品川1丁目で発見された空洞の原因調査と復旧について（結果）

1. 原因調査及び復旧工事の実施

8月4日（火）の現地調査にて確認した北品川1丁目の空洞について、8月9日（日）に「直轄国道の舗装（路面）に関する保全検討委員会（委員長：小泉淳 早稲田大学理工学術院教授）」及び占用企業者の立会のもとで公開にて空洞原因調査を行い、その後、復旧工事を行いました。

2. 空洞原因調査について

(1)調査内容

色水注水：水の流れる方向により、原因を推定しました。

また、共同溝内部に調査員を配置し、注水時に色水の侵入があるか確認しました。

寸法調査：目視及び検尺を行い空洞寸法、異物状況、層構成等を調査しました。

簡易貫入試験：路床部のゆるみを把握するためのデータを取得しました。

ハンディー型FWD調査：簡易型の測定器を用いて、舗装の健全度を把握するためのデータを取得しました。

(2)空洞の状況

・舗装を開削した結果、①8月4日現地調査した空洞の他、②中央分離帯付近に空洞を確認しました。また、復旧の途中で③歩車道境界付近に空洞があることも確認しました。（以下、数字は確認された最大寸法）

①8月4日現地調査時に確認した空洞の規模

・深さ0.41mのところに縦1.0m、横1.3m、厚さ0.43mの空洞

②中央分離帯付近の空洞の規模

・深さ0.41mのところに縦1.45m、横0.65m、厚さ0.92mの空洞

なお、局部的に厚さ1.6mの部分がありました。

③歩車道境界付近の空洞の規模

・深さ0.4mのところに縦0.8m、横2.0m、厚さ0.55mの空洞

(3)空洞の調査結果

①8月4日現地調査時に確認した空洞

・水を注水した結果、既設の埋設物（NTT通信管）に沿って、水みちが確認されました。

②中央分離帯付近の空洞

・水を注水した結果、既設の埋設物（共同溝）に沿って、水みちが確認されました。

③歩車道境界付近の空洞

・水を注水した結果、既設の埋設物（NTT通信管）に沿って、水みちが確認されました。

確認された空洞は、水みちにより土砂が流出して発生したものと推定されます。

また、共同溝内部に調査員を配置しましたが、色水の浸入はありませんでした。

なお、簡易貫入試験、ハンディー型FWD調査のデータは後日とりまとめ、本日確認された調査結果とあわせて第4回委員会において、空洞の発生原因などを審議して頂く予定です。

3. 復旧工事について

砂で埋め戻し、碎石とアスファルトにて舗装を復旧しました。

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所	副所長	星野辰雄	（電話03-3512-9090）
国土交通省関東地方整備局道路部	道路保全企画官	石井 武	（電話048-600-1323）
国土交通省道路局国道・防災課	課長補佐	信太啓貴	（電話03-5253-8494）

調査風景

ハンディ型FWD調査



FWD調査



舗装版切断



簡易貫入試験



8月4日現地調査時に確認した空洞



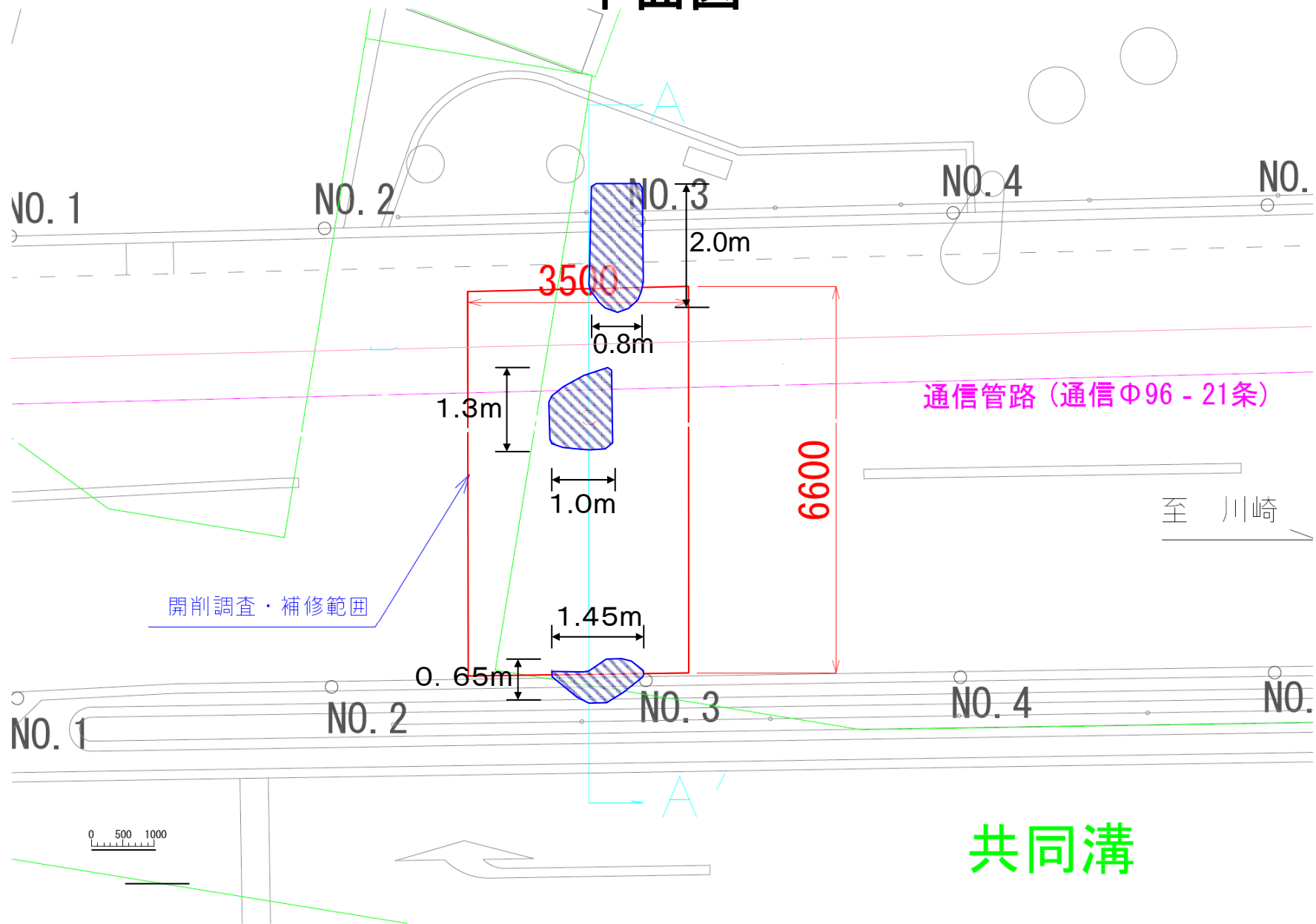
中央分離帯付近の空洞



歩車道境界付近の空洞



平面図



開削調査・補修範囲

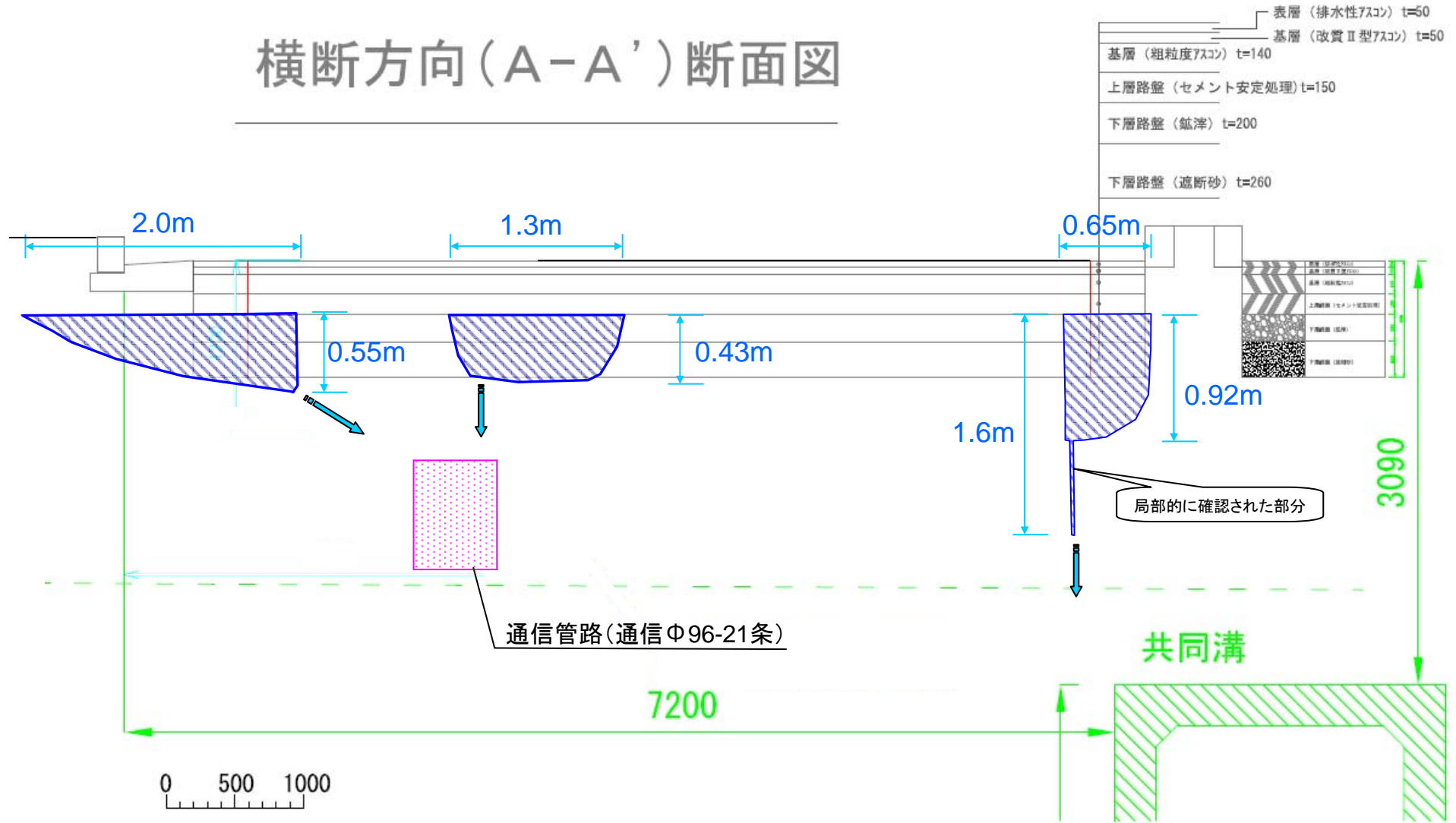
通信管路 (通信Φ96 - 21条)

至 川崎

0 500 1000

共同溝

横断方向(A-A')断面図



➡ : 水の抜けた方向を示す